令和4年度 中期目標・中期計画に対する自己点検・評価結果

1. 概要

国立大学法人法の一部改正により、第4期中期目標期間における毎年度の業務実績に係る年度評価の実施は廃止されたが、各法人による自己点検・評価の実施・公表を行うことが引き続き求められている。

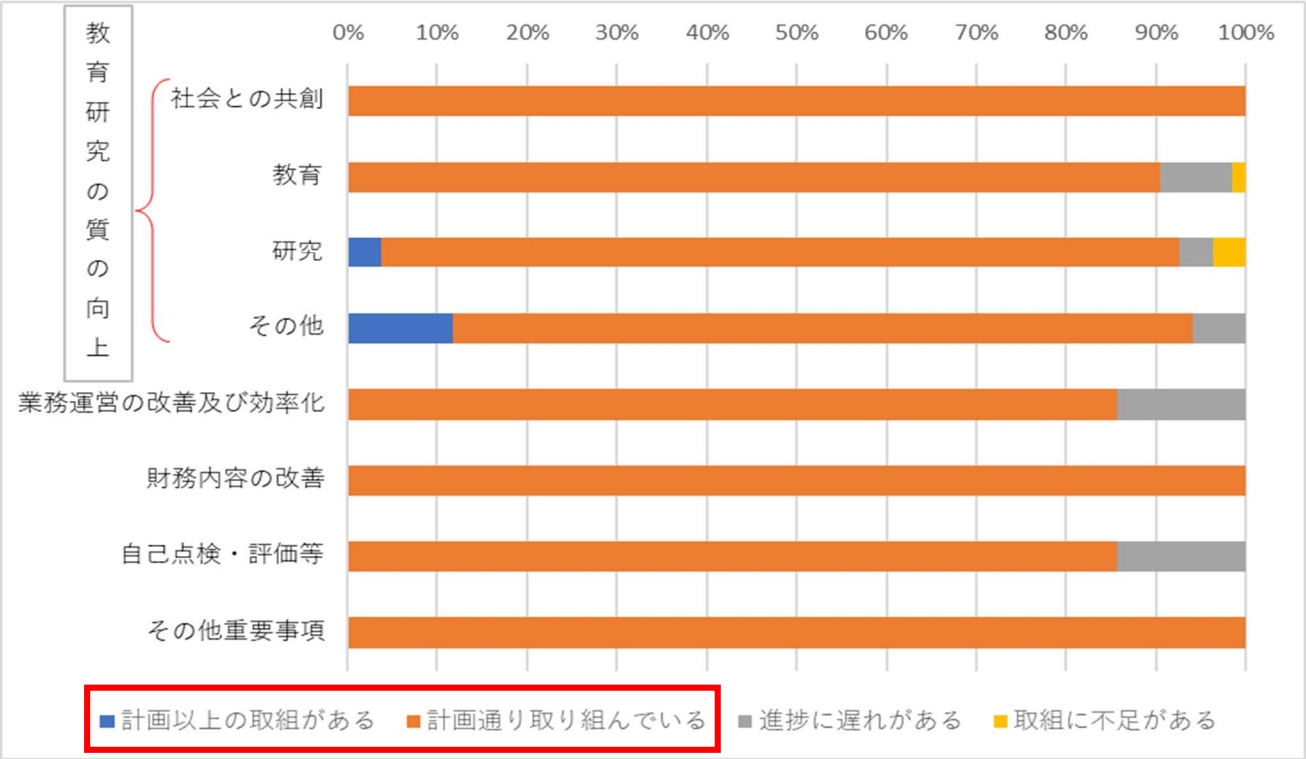
本学では、第4期中期目標・中期計画の達成及び教育研究水準の向上を図ることを目的として、適切に進捗管理を行うため、引き続き自己点検・評価を毎年度実施し、評価結果の公表を行う。

2. 評価方法

国が一部改正した第3期との主な変更点として、第4期から全ての中期計画に対して達成度を測るための評価指標を設定し、同指標の達成状況に重点を置いた評価が行われる。

これを踏まえ、本学の令和4年度自己点検・評価では、各評価指標対して立てられた計画について達成状況評価を4段階評価(◎:計画以上、○:計画通り、△:進捗に遅れ、×:取組に不足あり)により実施した。

3. 評価結果 総括

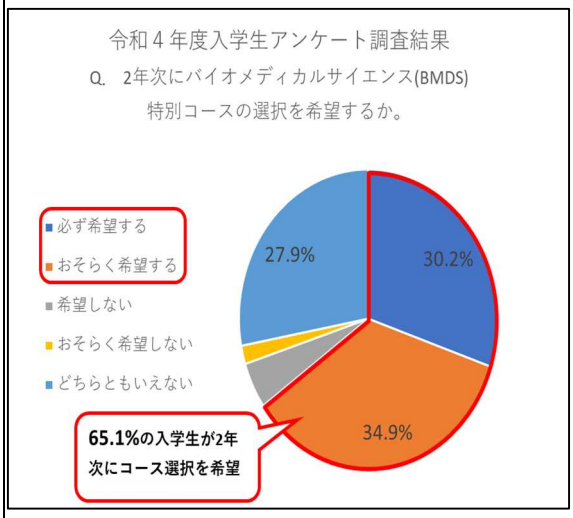


評価の結果、全体の約9割近くが計画通り取り組んでいる一方、一部で進捗に遅れや取組に不足があることが認められた。進捗に遅れや不足が生じている主な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響等が起因している場合や取組を行っているものの実績が伸び悩み、目標値に到達できなかった場合等が見受けられた。

計画通り又は計画以上の取組が行われている計画については、引き続き計画達成に向けた取組を継続し、取組状況が芳しくない事項に対しては次年度以降の計画修正やフォローアップ等の適切な対応を通して取組状況の早期改善・向上を図っていくこととした。

4. 令和4年度の主な取組

バイオ・メディカルデータサイエンスコースの新設



学部・修士一貫の胚培養士教育を開始するため、生命環境学部と医学部の融合教育組織である「バイオ・メディカルデータサイエンス（BMDS）コース」を令和4年度に新設し、運用を開始した。このコースは、医療や創薬関連企業への人材輩出を想定しており、2年次への進級時に希望や成績に基づいて約20名が同コースへ配属される。

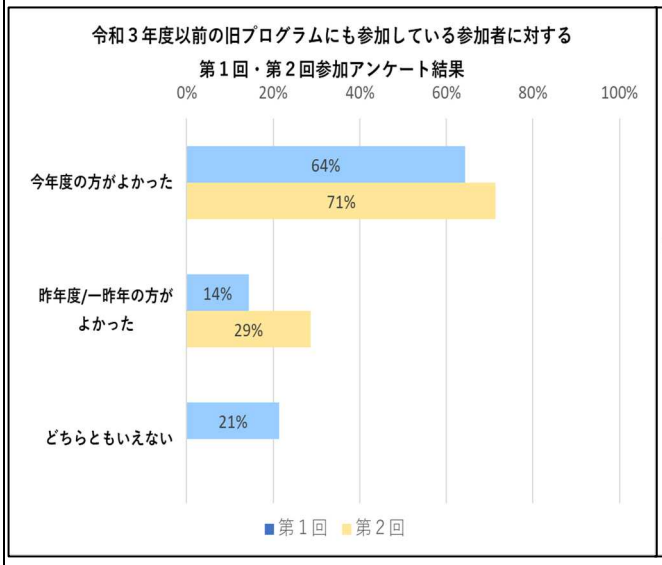
令和4年度の生命環境学部入学生に対してBMDSコース選択希望者数を調査した結果、選択希望者は6割を超え、学生ニーズも高いことが明らかとなっており、今後も胚培養士等の教育環境整備に向け、大学院実習や専門科目等の検討を予定している。

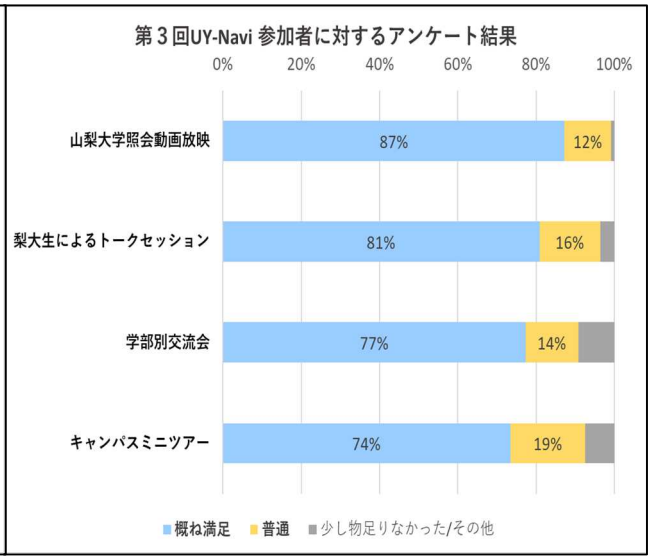
参考	生命環境学部 HP：BMDS コースに関する情報 https://www.bt.yamanashi.ac.jp/3003/

新たな高大接続プログラム「UY-Navi」の実施

平成29年度より「大学の知に触れる」をテーマとした継続育成型高大接続プログラムを実施していたが、令和4年度から新たなプログラムとして“University of Yamanashi Navigation for Future Students”（UY-Navi）をオンライン（第3回のみ対面/オンライン）により計3回実施した。第1回では高校生のキャリア形成に関する講義や学部案内・分散会、第2回では在学生との交流会や相談会、第3回では合格者が入学予定の学部に分かれて参加者間の交流及び在学生との意見交換や甲府キャンパスミニツアーを実施。いずれの回も参加者の満足度は高く、令和3年度以前から参加している参加者にも満足度は高い結果となった。

同プログラムでは、志願・受験から合格後まで繋がる支援機会の提供を実施しており、今後は同プログラムを先駆けとして入学者選抜方法に活用できる高大接続事業の検討・取組を加速させていく。





令和4年度共同研究数の年間目標値達成

若手研究者の研究開発力強化のため、令和4年度にリサーチ・アドミニストレーター(URA*1)を1名増員し、URA による若手教員と博士研究員候補者の支援チームを立ち上げて伴奏支援を開始した。また、山梨大学個別技術相談会やイノベーションジャパン、山梨産学官連携交流事業等へのイベント出展等によるコーディネート活動を積極的に実施した結果、令和4年度共同研究数は目標174件/年間に対して実績221件/年間と目標値を大きく上回った。

(*1:大学などの研究組織において、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事する人材)

ドローンと AI を活用した新プログラムの実施

文部科学省令和3年度補正予算(3,000万円)「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育事業」に採択されたことを受け、本学にて「ドローンと AI を活用した DX 推進データサイエンティスト人材養成プログラム」を新たに実施した。

本プログラムはドローン操縦に関する技術と AI 技術を活用した画像解析やデータ解析技術を学ぶことを目的とした社会人向けの教育プログラムであり、令和4年度は正規受講生24名が修了している。

参考	本学 HP:ドローンと AI を活用した DX 推進データサイエンティスト人材養成プログラム https://www.yamanashi.ac.jp/39398

附属病院における運営強化

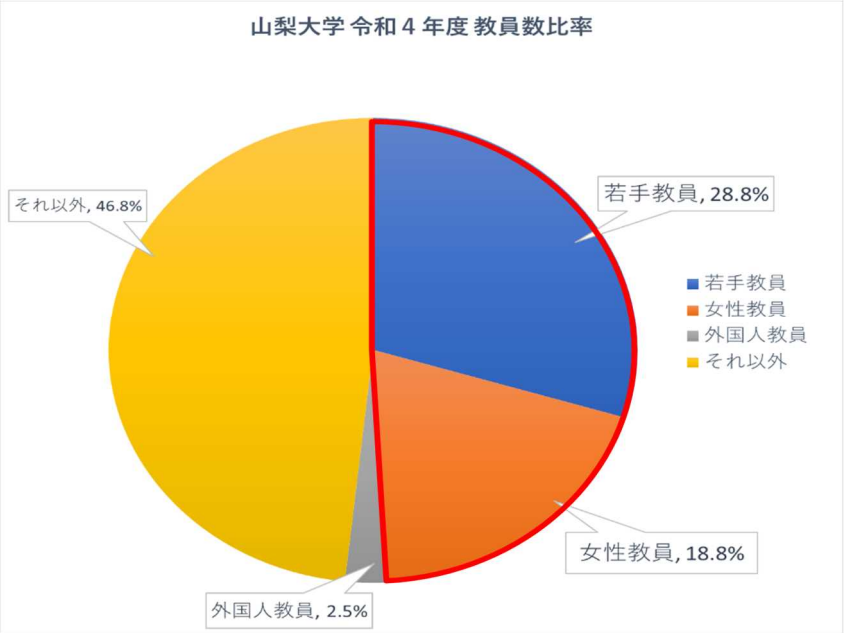
附属病院では、主に照会患者予約システムの導入や局所麻酔手術室の新設、アンギオ(多目的血管造影)室の整備を行い、令和4年度から各種運用を開始した。地域医療連携機関数についても、令和3年度の約2倍にあたる487機関に増加しており、地域医療連携を強化している。

これらの取組を通した令和4年度病院収入額は令和3年度比+24億円の252億円であり、当初目標としていた令和3年度比+10億円を十分に達成している。今後も引き続き各種取組の拡大・強化に取り組んでいく。

参考	附属病院 地域医療連携だより 2022 Vol.27 https://00m.in/JsYsX

学部別若手研究者等支援制度の新設

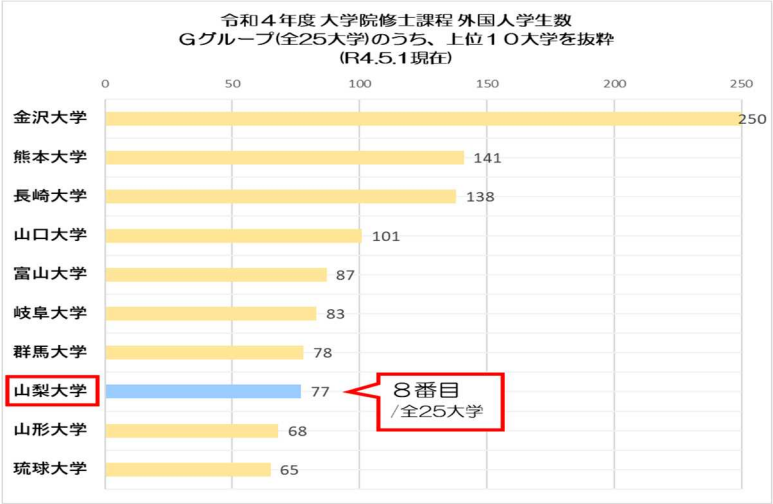
研究力強化のため、若手研究者等（若手教員・女性教員）への支援強化を図るべく、各学部における優れた若手研究者等獲得の実績を評価し、若手研究者等の研究力向上を加速させる取組として「学部別若手研究者等支援制度」を新設した。令和4年度末時点での本学の若手教員・女性教員比率は約半数に上る約47.6％を占めているが、本制度は令和5年度以降も拡大していく予定であり、各学部における若手研究者等の比率向上及び研究力向上を目指す。

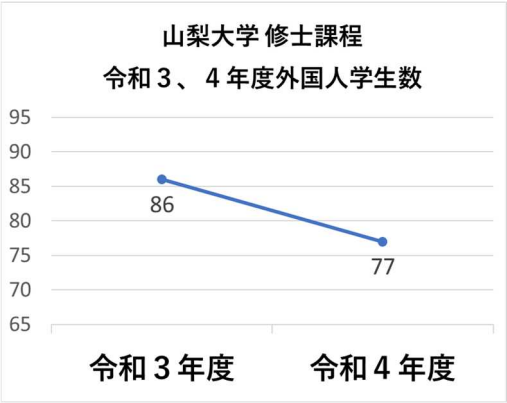


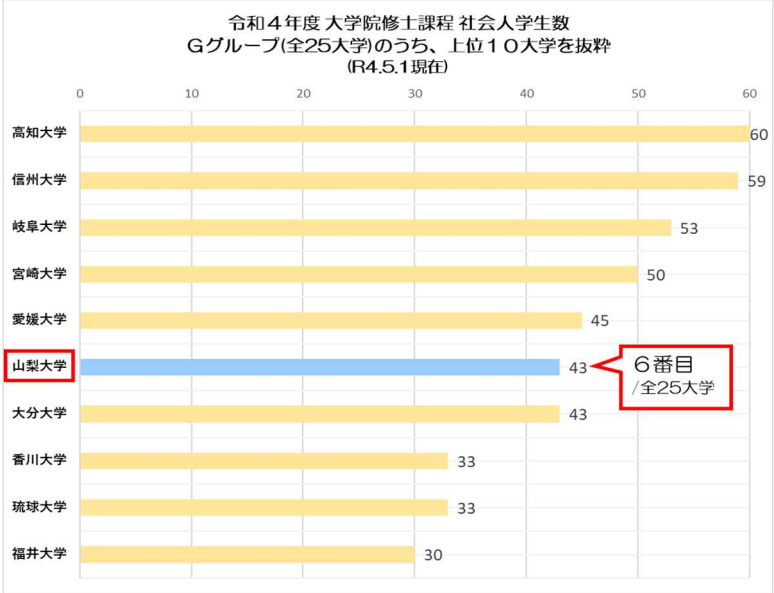
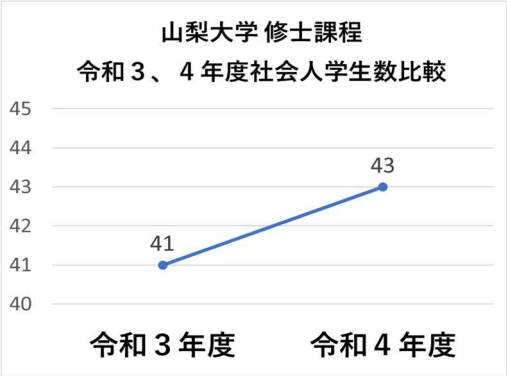
5.令和5年度以降の主な課題

修士課程における外国人留学生数の増加

新型コロナウイルス感染症に伴う入国等制限等の影響により、大学院修士課程における令和4年度外国人学生の増加があまり得られなかった。本学と同規模大学とされているGグループ全25大学との比較においては、8番目に多く外国人学生が在籍している状況である。令和4年度の取組状況では外国人留学生数の現状把握のみにとどまり、取組の進捗状況が芳しくないが、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の5類移行の行動規制緩和が行われていることから、令和5年度以降、外国人学生数の増加に向けた具体案の検討・実施を加速させ、外国人学生数を増加させることが期待される。





修士課程における社会人学生数

修士課程における令和4年度の社会人学生数は令和3年度より微増傾向にあり、内訳は工学9名、生命環境学3名、看護27名、生命医科学4名の計43名だった。本学と同規模大学とされているGグループ全25大学との比較では、6番目に多く社会人学生が在籍している状況である。令和4年度の取組状況では、社会人学生の現状把握のみにとどまり、取組の進捗状況が芳しくないため、令和5年度以降、社会人学生確保における課題洗い出しや確保策の検討・実施を加速させ、社会人学生数を増加させる仕組み構築が期待される。